

ウェブサイトのご紹介

在宅療養や緩和ケアに関するさまざまな情報や、各地でのフォーラムや研修会などの活動を掲載しています。在宅療養についてわかりやすくまとめたガイドブック「ご家族のための がん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」を、ご覧いただけます。



がんの在宅療養

がんの在宅療養



<http://homecare.umin.jp/>

掲載内容

- ▶ 「ご家族のための がん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」のご紹介
- ▶ 在宅での療養をテーマにしたフォーラムや研修会のご案内や開催記録
- ▶ 在宅療養ガイドに関わった人からのメッセージ
- ▶ お役立ち情報のご案内 など



ご家族のための がん患者さんとご家族をつなぐ 在宅療養ガイド

定価：本体価格 1,000 円+税
出版：株式会社 日本医学出版
ISBN 番号：978-4-86577-016-2
サイズ：A5 判
ページ数：144 ページ

全編をウェブサイトで
ご覧いただけます

全国の書店で
注文・購入できます

地域における がん患者の緩和ケアと療養支援情報 普及と活用プロジェクトについて

患者さんが、その人らしい生活を維持しながら、自宅や施設などの身近な場所で過ごすときに役立つ情報を、ウェブサイトやフォーラムなどで発信しています。地域でのフォーラム、アンケートなどを通して、顔の見える関係づくりを進めていくことが、患者さんとご家族を支える社会づくりの第一歩だと考えています。ぜひ、ウェブサイトをご覧ください。

あなたの街の相談窓口・連絡先

このパンフレットは、公益財団法人 正力厚生会の助成により作成されています。



がんの
在宅療養

3 回シリーズ

第3回

もっと知ってほしい 在宅療養のこと

もっと知りたい「がんの在宅療養」
病気になっても、ずっと家で暮らせます。

保存版

地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報 普及と活用プロジェクト

病気になっても、
ずっと家で
暮らせます。

もっと知りたい 在宅療養のこと



もっと知りたい「がんの在宅療養」

3回シリーズ

第1回 がん患者さんの在宅療養とは

第2回 私たちに相談してください

第3回 もっと知ってほしい、在宅療養のこと

もし、あなたや、あなたの大切な人ががんになったら。

住み慣れた場所での生活を続けながら、その人らしい毎日を送ることができるよう仕組みづくりが、地域で進められています。がん患者さんの在宅療養とは？



相談員

今回は、在宅療養の具体的なはじめ方について、体験者の声も交えながらご紹介します。

●在宅療養を選択したとき、まず始めること

必要なものをそろえたり、ご本人が過ごす部屋を整えたり、手続きをしたりと、在宅での療養を始め前には、いろいろすることがあります。でも、こうした準備を進めるときに、ご本人やご家族がすべてをやらうとしなくても大丈夫です。在宅療養を支える専門職と相談しながら、少しずつ環境を整えていけばいいのです。

●自宅や自宅に近い環境を整える

住み慣れた自宅や施設は、ご本人にとっての安住の場所。設備や広さでは病院の方が整っているかもしれませんが、在宅での療養ではご本人の安心感が違います。介護保険を利用して、使いやすい介護用電動ベッドや福祉用具をレンタルしたり、購入することができます。自宅や自宅に近い環境での生活環境を整えるには少し時間がかかりますが、ケアマネジャーや訪問看護師などと相談しながら、ご本人の状態に応じて調整していくことが大切です。

在宅療養にマニュアルや決まりはありません

ご本人とご家族が、過ごしやすい環境の中で療養できるようにするには、「こうしなければならない」という決まりはありません。

医療や療養を支えるスタッフの助けを得ながら、今後どのようにしていけばいいのかを一緒に考え、話し合いながらつくっていくものです。

自宅でどう過ごしたいか、ご家族で十分に話し合ってみましょう。

対話を重ねていくうちに、きっと、安心できる在宅での療養環境ができていくでしょう。



在宅療養について 相談するには

- 行政の担当窓口があります。
- 相談員のいる、地域包括支援センターの各地域の所在を各市町村に聞いてみましょう。
- 国から指定を受けているがん診療連携拠点病院には「がん相談支援センター」が設置されているので、足を運んでみてください。相談は無料で、その病院にかかっても利用できます。



国立がん研究センターがん対策情報センターが運営するウェブサイト「がん情報サービス」で、全国の「がん相談支援センター」を検索できます。

がん情報



国立がん研究センター
がん情報サービス ganjoho.jp

「ご家族の体験談」

(「ご家族のための がん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」より抜粋)

■チームで生活の質（QOL）アップ (広島県 50代・女性)

夫は「多重がん」と診断されて、いつ、どこに転移や再発をするのかがわからない状態で不安を抱えながらの療養生活でした。そんなときに訪問診療の医師を紹介していただきました。病院の担当医との連絡を取っていただきながらの在宅生活でした。

夜中の変化にも対応していただける心強さは、本人にとっても家族にとっても安心の重要なポイントでした。

また、日頃ケアしてくれる訪問看護師さんに加え、在宅リハビリテーションをしてくださる理学療法士さん、薬を持ってきてくださる薬剤師さんなど、在宅でも多くの職種の方に関わっていただけることが心強く、安心して生活できました。

■笑顔と活気が戻り、準備を整えて故郷へ (40歳代・女性)

父が自宅での療養を決めてから、2か月。訪問診療の先生や看護師さんの協力で病院にいるときよりも痛みが和らぎ、本人と家族が想像していた以上に動けるようになり、笑顔と活気が戻りました。

人間は欲が出る生き物のようで、生まれ故郷にもう一度行きたい、先祖の墓参りをしたい、親戚にあいさつしたいと希望するようになりました。

父は筋金入りの頑固者。言い出したら聞きません。娘としても、何とか希望をかなえてあげたいと願い、訪問診療の先生と看護師さんに相談しました。万が一のときのための紹介状をお守りがわりに、準備万端でいざ故郷へ。家族全員で降り立った地の澄みきった空気は、移動の疲れを吹き飛ばすほどでした。

より詳しくは、次のページをご覧ください ▶▶▶▶